第53回　日本薬剤師会学術大会報告

一般社団法人千葉県薬剤師会
薬事情報センター研究部門
委員　小林一敏

第53回日本薬剤師会学術大会が北海道札幌市で開催されました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、現地開催とWeb開催の併用による、いわゆるハイブリッド開催となりました。今回は「その先へ。あなたに寄り添う心とともに」というテーマが掲げられています。我々がかかりつけ薬局・薬剤師として地域の方々に寄り添い、信頼され、薬剤師の職能を発揮していく未来を見据えたテーマであると感じました。

特別記念講演をはじめ、特別講演、特別企画、分科会や共催セミナーなど多くのプログラムが組まれ、見識を広める良い機会になりました。また口頭発表では在宅医療や学校薬剤師、アンチドーピングなど明日からの実務に活かせるような具体的な事例の紹介など大変参考になりました。機器展示においては、対物から対人へと言われる薬剤師業務を強力にアシストしてくれるであろうと思われる鑑査システムや薬歴、服薬支援ソフトなど、次世代の薬局の在り方を考えさせられるラインナップでした。

薬事情報センター研究部門委員として、Web掲載形式でポスター発表をしました。今回の発表は、患者のジェネリック医薬品（GE）に関する基礎知識の有無がGEの希望に影響を与えるかを調査し、今後のGE使用推進策について検討しました。この研究ではアンケートに回答することで、患者が知識を得られる工夫をしました。対象は南行徳薬局に初めて来局された患者のうち、GEを希望しない方に対しGE等（GE、オーソライズドジェネリック（AG）、一般名処方）の認知度とGEを希望しない理由をアンケート調査しました。回答後にGE等について説明した上で、再度GEの希望の有無を確認しました。対象者は28名で、認知度はGE85.7%、AG14.3%、一般名処方32.1%でした。GEを選択しない理由は効果や副作用の違いに対する漠然とした不安や過去の経験に基づくものがありました。GE等について説明した上で、再度GEの希望を調査した結果、60.7%がGEを選択しました。多くの患者ではGEの認知度は高いものの、AGや一般名処方について理解している方は少なく、今後の課題はそれらの知識や理解度を上げる広報が、GEの使用割合の上昇につながるのではないかと考えられます。